

「区民と区長のタウンミーティング」に出された意見の反映状況

	開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
1	5月21日	区内には一時的な預かり保育ができる施設が少ない。特に特性のある子どもの受け入れ先が少ないため、増やしてほしい。 また、ベビーシッター利用支援事業の限度が年間144時間では足りない。	一時保育の拡充について検討を行う。また、ベビーシッター利用支援(一時預かり利用支援)については、令和8年度より障害児及びひとり親世帯の児童一人あたりの年間利用上限時間を、144時間から288時間へ引き上げる。また、発達に特性がある子どもの一時預かりについては、区立障害児通所施設で一時保護事業を実施しており、受入人数については、利用状況を見ながら検討していく。
2	5月21日	子どもの身体機能の発達を促す視点での公園づくりや適切な遊具の設置に力を入れてほしい。また、区ホームページで身体を育てる遊び場として特色ある遊具を紹介する記事があるといい。	中野区公園再整備計画に基づき、子育てニーズに対応した遊具の設置を進めている。インクルーシブ遊具など特色ある遊具の紹介を区ホームページ等で発信していきたい。
3	5月21日	需要が多いにも関わらず、区内にバスケットボールが出来る場所が少ない。	バスケットボールをはじめとした屋内競技については、総合体育館、スポーツ・コミュニティプラザ及び小中学校開放において体育館施設を整備しており、それらの施設をご利用いただきたい。
4	5月21日	道路の舗装が劣化している箇所を補修してほしい。	舗装の劣化が進んでいる箇所については、優先順位を設定し、順次補修を進めていく。

	開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
5	5月21日	まちを歩いていて、気軽に休める場所がない。休憩スペースの設置を検討してほしい。	区有施設整備やまちづくりの中で、関係所管と連携しながら気軽に休憩できるようなスペースの設置を推進していくとともに、民有地におけるベンチの設置助成を引き続き行い、休憩スペースの確保に努めていく。
6	5月21日	療育施設や放課後デイサービスの利用を希望しても、実際に利用できるまでに数か月待たなければならない現状がある。放課後デイサービスの施設数を増やすとともに、待機期間の短縮に向けた取り組みをしてほしい。	放課後等デイサービスや療育施設の利用にあたっては、療育相談、サービス申請、各種調査、障害児支援利用計画の作成と支給決定、事業所との利用契約など、多くの手続きを要するため、サービスの支給決定までに一定の時間を要している。手続きの簡素化等については、引き続き改善を進めていく。放課後等デイサービスの施設数については、利用状況を踏まえて検討していく。 また、療育に関する相談については、子育て専門相談において主訴やお子さんの状況を確認しながら適切な支援につなげており、新規療育機関等の情報を収集し、案内の充実にも努めていく。
7	5月21日	保育所等訪問支援の回数を増やしてほしい。	現在、保育所等訪問支援を区立2施設及び民間3事業所で実施している。訪問回数増加に向け、民間事業所のさらなる開設誘致を行っていく。
8	5月21日	発達支援が必要な子どもが保育園で食事のサポートを受けられるようにしてほしい。	保育園在籍の子どもに対しては、保育所等訪問支援において専門職が訪問し、食事の課題等について保育士等に助言を行っている。また、給食提供に配慮が必要なお子さんについては、主治医の指示を確認し、誤嚥防止対策を講じたうえで、集団給食で可能な対応を保護者と相談しながら進めている。様々な制約がある中で、今後とも保護者と相談しながら安全な給食提供を推進していく。

	開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
9	5月21日	特別支援学級の常設化を進めてほしい。	特別支援学級は小学校6校、中学校3校に設置されている。
10	5月21日	現状、発達支援に関する情報は母親同士の情報でなんとか知ることが出来ている。区ホームページで発達支援に関する情報をまとめてくれると、情報収集がしやすくなるのではないかな。	保護者が子どもの発達支援について理解を深め、その後の子育てに対する不安が軽減されるよう、区ホームページについてわかりやすい情報発信に努めていく。
11	5月21日	ASD、ADHDの子を持つ親の相談先を増やしてほしい。	発達障害児の相談の入口は、区立療育センターが担っており、専門職が相談対応を行っている。また、保護者の不安や孤立を防ぐため、知識の習得や当事者同士のつながりを広げるペアレントメンター養成事業も実施している。今後については、より専門的な相談対応が行えるよう検討していく。
12	5月21日	発達に課題のある子どもにあった習い事が見つけられない。子どもが様々な体験に触れられる機会や情報がもっと身近にあれば嬉しい。	家庭の状況、特に経済状況によって左右されないよう、学習や体験機会の提供等に取り組んでいる。また、子ども自身の状況により学習や体験機会が少なくなるといった課題に対しては、支援を所管する関連部署と連携し、課題解決に取り組んでいく。児童発達支援や放課後等デイサービスにおいては、療育の観点から、子どもの特性や興味・関心に応じた多様な体験の機会等を提供している。
13	5月21日	発達支援が必要な子どもたちに対する理解や知識のある保育士を増やしてほしい。	保育園在籍の子どもに対しては、保育所等訪問支援において専門職が訪問し、支援対象の子どもへの支援を通じて保育士等へ発達支援に関する助言を行っている。また、区立障害児通所支援施設においては、地域啓発事業等を通して、区内の保育士等の発達支援に係る理解促進に努めている。また、区では保育士に対して子どもの発達に関する研修を行っており、発達相談を専門事業者に委託して各々の対応方法について助言を得ている。今後とも、これらの取組を推進していく。

	開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
14	5月21日	障害のある子どもの子育ては定型児よりも多くの支援が必要である。 人手不足などにより、福祉に関わる方の負担が大きくな らないよう、働きやすい環境を整えてほしい。	令和6年度の報酬改定では、人材確保・定着を目的とした処遇改善加算の 一本化と加算率の引き上げが実施された。また、あわせて現場の負担軽 減・業務効率化として、管理者の兼務範囲の見直し、テレワークの取扱い の明確化等も行われた。区としても、各事業所において人材確保と定着が 図られるよう支援していく。
15	5月21日	区内に宿泊を伴うショートステイ施設がないため、将来 を見据えた自立に向け、親と離れるための練習ができな い。他自治体の施設を利用しようとしても、その自治体 の住民が優先で、なかなか利用できない。	区では、子どもショートステイ事業(子育て短期支援事業)を行ってい る。保護者の疾病その他の理由により家庭において児童を養育することが 一時的に困難となった場合や、子育てに係る保護者の負担の軽減が必要な 場合等に、一定期間、養育・保護その他の支援を行っている。 利用にあたっては、施設で面談を行い、施設において安全な受け入れ体制 の確保が可能であると判断できる場合について、発達に課題のある児童の 受け入れを行っている。 障害児のショートステイについては、区内においてショートステイを実施 する事業者に対し、引き続き受け入れについて働きかけをしていく。ま た、今後も新たな施設整備の検討や適切なサービスの提供に向け、取り組 んでいく。
16	5月21日	発達支援を受ける際に、それぞれの子どもにあった支援 を受けられるようにしてほしい。	支援の入口である療育相談において、児童の状況を確認し療育の必要性に ついて判断をしている。加えて適切な支援が受けられるよう、保護者への アドバイスを行い、それぞれの子どもにあった支援を行っている。

	開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
17	5月21日	安心して子育てをするために、育児に不安を感じていることを相談できる窓口があるといい。また、育児に関する情報収集のため、子育て家庭の親同士がつながることができる機会を設けてほしい。	<p>現在区では、様々な施設において子育て支援を行っている。中学校区ごとに設置している基幹型児童館では、相談体制を強化し、子育て支援に関する豊富な知識と経験を持った専門の相談員（利用者支援専門員：愛称いくさぼさん）を配置している。また、各児童館では定期的に「子育てなかま作り支援事業」を実施しているほか、委託事業者の運営する「子育てひろば」も、保護者同士が気軽に交流できる場所となっている。</p> <p>子ども・若者支援センター(総合相談)では、令和7年度から、新たに利用者専門員を配置している。子ども・子育て家庭にとって身近な場所において日常的に相談を受け、子育ての助言・情報提供を行うとともに、地域の子育て支援関係機関との情報共有等を行っている。令和8年度からは、既存の常勤福祉職に加え、「子育て総合相談員（利用者支援専門員）」として会計年度任用職員（専門職）を追加で設置し、利用者支援専門員を増員する。</p> <p>すこやか福祉センターでは、育児に不安を感じている方に対し、個別に対応を行っている。また、子育て家庭の親同士の繋がりを持つ場として各種産前産後サポート事業の講座の実施などを行っている。</p> <p>今後も、子ども・子育て家庭へのアプローチやコーディネート機能を強化するとともに、区内の子育て支援事業情報の集約・発信、子育て支援団体とのネットワークづくりを行っていく。</p>
18	5月21日	夏場に室内で遊べる施設が少ない。児童館や無料で利用できる室内の遊び場を増やしてほしい。	<p>児童館は、「中野区児童館運営・整備推進計画」に基づき現在の18館を継続していく考えであるが、小学校に併設するキッズ・プラザは学校の改築等にあわせて順次整備を進めていく。令和8年度には、教育センター分室を活用した暫定的な中高生の居場所づくりを進めていくとともに、既存区有施設における中高生年代の利用促進について検討を進めていく。</p>

	開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
19	5月21日	病児保育を利用できる施設が少なく、利用しにくいので対応施設を増やしてほしい。 施設によっては医療機関からの診断書や、お弁当を持参する必要があり、利用にあたっての負担が大きい。	病児保育については、今後の利用状況を踏まえ、病児・病後児保育施設のさらなる拡充を検討していく。医師連絡票は、安全な保育のためにすべての病児・病後児保育施設で必要である。病児保育施設での食事の提供に関しては、今後検討を進めていく。
20	5月21日	休日保育を実施している保育園が少ない。	休日保育の園数については課題であると認識している。事業の拡充に向けた検討を行う。
21	5月21日	子どもの特性によっては、公園で遊んでいても走って公園の外へ行ってしまいう危険性がある。安心して利用できるよう、柵で囲われている公園があるといい。	公園は、誰もがいつでも利用できる機能や、災害時に逃げ込む場所としての機能も有するため、基本的に閉鎖空間とはしていない。今後、新規公園や再整備を行うにあたっては、地域ごとの特性や要望も踏まえながら検討していく。
22	5月21日	公園でサッカーが出来るように、利用ルールを改めてほしい。	騒音や安全性等の課題があるためサッカーができる公園とできない公園とを分ける運用を行っている。近隣の住環境への配慮とともに、多様な利用者が安心して過ごせるよう、適切なルールについて検討していく。
23	5月21日	塔山小学校の学区に公園が少ない。	様々な機会を捉え、新たな公園の確保に努めていく。

	開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
24	5月21日	子どもの特性によっては、複数の放課後デイサービスの利用や療育施設に通うことが大きな負担となる。子どもの負担を減らすため、一つの施設に毎日通えるようにしてほしい。	放課後等デイサービス等は、子どもの特性に合わせて様々な利用方法があり、施設により利用状況も様々である。区立障害児通所施設の利用枠については、利用状況を踏まえ検討していく。
25	5月21日	現在、区内の療育センターは北と南に一つずつあるが、通いにくい場所にある。区にも療育センターがあるといい。	平和の森小学校移転後の跡地に新たな児童発達支援センターの整備を計画しており、開設に向け、今後検討を進めていく。
26	5月21日	乳幼児健診の際、発達特性のある子どもが安心して過ごせるような待機できる場所があるといい。子どもの特性の有無に関わらず、すべての子どもと保護者にとって行きやすい健診環境を整えてほしい。	乳幼児健診時に発達特性のある子どもが安心して過ごせる待機場所の設置については、施設の構造などに基づく様々な課題があるが、適宜、声掛けや必要な支援を行うなどの個別対応に努めるとともに、引き続きすべての対象者にとって受診しやすい健診環境となるよう検討していく。
27	5月21日	発達支援の必要がある子どもに配慮してくれる病院を紹介してほしい。	お子さんの状況を伺いながら、医療機関を案内している。
28	5月21日 5月29日	子どもを乗せても、安心して走行できる自転車専用コースの整備や、道路環境の改善を進めてほしい。	中野区自転車利活用計画に基づき、自転車ネットワークの形成に向けた自転車通行空間の整備を進めていく。

	開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
29	5月21日 6月7日	区立小学校に情緒学級を常設してほしい。 現在実施している特別支援教室では時間が足りていない。	情緒障害特別支援学級の新設については、教育環境の整備、専門人材の確保、学校選定を含め、慎重に検討を行っていく必要があると考えている。今後は、これらの課題を踏まえつつ、引き続き他自治体の取組状況を調査・研究し、設置に向けた検討の準備を進めていく。また、区教育委員会および小・中学校長で構成する特別支援教育検討委員会にて、設置に向けて検討していく。
30	5月21日 6月7日	JR沿線に特別支援学級が少なく、通にくい。 どの地域に住む家庭も利用しやすいように点在させてほしい。	特別支援学級の設置には、施設面の整備に加え、専門的な教員の配置といった人的資源の確保など、様々な課題がある。これらの課題は、区教育委員会だけでなく、東京都教育委員会との連携のもと、地域のニーズや児童数の推移を踏まえながら慎重に検討を進める必要がある。
31	5月21日 6月7日	小さい子ども向けの公園の遊具が多いように感じる。 区内すべての地域で、幅広い年代の子どもが遊具を安全に楽しめるように、整備を進めてほしい。	小さい子どもだけでなく、幅広い年代の子どもを対象とした遊具の選定を進めていきたい。
32	5月21日 6月7日	地域全体で障害や発達に問題を抱えている子どもへの理解を深めるイベントがあるといい。	障害や発達に課題のある子どもへの理解を深めるための取組は重要であると認識している。区では、区立障害児通所支援施設における地域啓発事業や、ペアレントメンターの地域公開講座等を通して普及啓発を行っている。今後も関係機関と連携し、普及啓発の強化に向けて取り組んでいく。
33	5月21日 7月5日	高根公園などトイレが設置されていない公園があるため、設置してほしい。 また、公園のトイレのおむつ替えスペースが汚い。もっと綺麗に使いやすくなるよう改修を進めてほしい。	現状、半数以上の公園にトイレが設置されている。今後は必要性や維持管理経費を考慮してトイレの適正配置について検討していく。公園トイレの改修については、年に2公園程度を行うとともに、トイレ環境の改善に努めていく。

	開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
34	5月21日 7月5日	他区に比べ、歩きたばこや路上喫煙禁止地区での喫煙が多く、受動喫煙の被害を受ける可能性が高い。喫煙所を増やし、一定間隔で設置することで、受動喫煙を防止してほしい。また、喫煙所は煙が出ない作りしてほしい。	区では現在、路上喫煙禁止地区に指定した中野駅周辺に3か所の喫煙所を設置している。そのうち1か所は「加熱式たばこ専用喫煙所」、1か所は外部にたばこの煙が出ない「トレーラーハウス型喫煙所」となっている。中野駅北口東西連絡路下のバーテーション型喫煙所については、外部にたばこの煙が出ない「コンテナ型喫煙所」に改修し、令和8年3月2日から供用を開始した。 また、今後区が設置する公衆喫煙所については、受動喫煙防止の観点から、受動喫煙防止に効果が高い、閉鎖型が望ましいと考えている。公衆喫煙所の設置費用等に対する助成事業を実施することにより、民間事業者等による喫煙所整備を推進し、適切な喫煙場所の確保に努める。
35	5月29日	高齢者へのフレイル対策に力を入れてほしい。	既に実施している一般介護予防事業や元気アップセミナー・元気アップ訪問の改善、生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）による高齢者会館の介護予防事業への支援・強化を進めていく。
36	5月29日	ランニングの途中で立ち寄れる休憩スポットがあることで、運動を始めるきっかけになる。また、人との交流の場としても機能するのではないか。	ランニングの途中で立ち寄れる休憩スポットについては、様々な方が利用できるよう、設置場所も踏まえながらベンチ等の設置について検討を進めていきたい。 また、中野区立総合体育館では館内及び野外にランニングコースを整備している。このほか、屋外運動施設及びスポーツ・コミュニティプラザも整備しているため、それらの施設もご利用いただきたい。
37	5月29日	栄養や運動に関する正しい知識を得る機会として、地域の医療関係者と連携したイベント開催をしてほしい。	現在区では、区民の方に栄養バランスのとれた食生活習慣を身に付けていただくことを目的に食育講習会を実施している。 協定事業者の中に地域の医療関係者等も含まれているため、事業者の協力を得ながら健康に関するイベントを実施し、区民の健康づくりを推進していく。

	開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
38	5月29日	出産後、子育てのために運動する時間が確保できなくなった。 赤ちゃんや幼児連れでも総合体育館などの運動施設を利用できるようにするか、一時保育の仕組みを設けてほしい。短時間であっても、子育て世代にとっては貴重な運動の機会であり、利用したい人がいるのではないか。	スポーツ施設での一時保育は、施設設備や人員の確保が難しいことから、実施は予定していない。また、お子さん同伴での個人利用は、他の利用者への影響や安全面の観点から対応が困難である。なお、各施設では親子で参加できる教室・プログラムを実施しているため、こうしたプログラムの参加をご検討いただきたい。
39	5月29日	SNSを活用し、運動や食事に関する情報を区民へ情報提供してほしい。	現在区では、区ホームページや区報といった媒体に加え、XやLINEなどのSNSにおいても、健康・福祉に関する講習やイベント等の情報を発信している。今後も引き続き健康・福祉に関する情報発信を行っていく。
40	5月29日	旧中野サンプラザにトランポリンの設置など、子どもから大人まで楽しみながら運動できる環境を整えてほしい。	中野駅新北口駅前エリアに設置される施設については、中野サンプラザのDNAの継承、親子が楽しめる機会と空間及び区民が文化・芸術に触れ、活動する機会の創出等、100年先も中野の顔として区民に愛される施設の実現に向けて取り組んでいく。
41	5月29日	町会・自治会や友愛クラブなど既存の団体の魅力を高める工夫をしてほしい。 また、関心のある活動にのみ参加できる「部分参加」を取り入れるなど、住民が気軽に参加出来る仕組みがあるといい。	町会・自治会や友愛クラブなどが、各団体の魅力を高めるように活発に活動していけるよう、助成金などによる支援を行っていく。 また、参加可能な時だけ参加できる仕組みを導入している町会の事例もあることから、こうした取組を全体に周知し、住民が気軽に参加できる仕組みを推進していく。
42	5月29日	子どもから高齢者まで幅広い世代が気軽に立ち寄ることのできる交流スペースを設けてほしい。	区民活動センターについて、地域活動での活用や、様々な利用者にとって使いやすい環境となるよう工夫していく。

	開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
43	5月29日	折り紙や料理を作るイベントを実施してほしい。国籍や性別、年齢などの個人の特性に関わらず楽しむことのできるイベントを通して、交流の場としてほしい。	区民活動センターについては、地域活動での活用を促進するとともに、様々な利用者にとって使いやすい環境となるよう工夫を進めていく。また、健幸プラザについては、地域住民の交流を目的とした活動に利用できる施設であることについて、さらなる周知を図っていく。あわせて、国際交流協会では、世界の家庭料理講習会などのイベントを実施しており、交流の機会となっている。こうした事業の情報発信にも取り組んでいく。
44	5月29日	中野にはミュージシャンやお笑い芸人が多いという特色がある。この特色を活かすために、旧中野サンプラザを有効活用し、音楽やサブカルチャーを発信・拡大できるような環境を整えてほしい。	令和7年10月より、中野サンプラザ南側広場を、音楽やダンスなどのパフォーマンスに開放する「中野サンプラザパフォーマンスフィールド事業」を開始した。中野区内外から多くの登録があり、様々なジャンルのアーティスト等が利用している。また、中野駅新北口駅前エリアのまちづくりにおいては、中野サンプラザが培ってきたポピュラー音楽の発展の他、中野の文化醸成への寄与として、昨今注目されているアニメや漫画などのサブカルチャーといった中野の特性を反映した検討を進めていく。
45	5月29日	区で実施しているイベントを知る機会が少ない。まるっと中野やinstagramを中心としたSNSを活用し、周知に力を入れてほしい。また、イベントの参加者からフィードバックを受けられるような仕組みがあると良い。	現在区では、区ホームページや区報のほか、XやLINEなどのSNSにおいても区が主催(または共催・後援)するイベントの情報を発信している。今後も対象や情報の性質に応じてより効果的な媒体で情報発信を行っていく。
46	5月29日	健幸まちづくりに力を入れている外部団体に対して補助金制度を設けてはどうか。	社会課題や地域課題の解決につながる区民公益活動の事業については政策助成制度があり、各種事業及び団体の活動が活性化されるよう支援していく。

	開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
47	5月29日	バスと停留所の間隔が狭く、利用者がバスを待つ際に危険を感じることもある。 また、自転車が速度を落とさず近接して走行することがあり危ない。	自転車利用者に対する注意喚起については啓発看板等を設置して行っており、今後も継続して取り組んでいく。また、安全性の確保に向けバス事業者と情報を共有していく。
48	5月29日	AIチャットボットを活用し、気軽に健康に関する質問や相談できる機会を提供してほしい。	導入済のAIチャットボットは、区の一般的な手続きに係る問い合わせを目的として導入しており、より専門的な質問や相談に対応しうるAIチャットボットの導入は現時点では検討していない。
49	5月29日	狭い道路が多く、歩行者が危険を感じる場面が多い。歩行者の安全確保のため、道路整備や安全対策を強化してほしい。 また、道路幅が狭く、消防車が進入できない路地があり、災害時の対応に不安がある。給水ポンプの設置を進めてほしい。	中野区生活道路の拡幅整備に関する条例に基づき、狭あい道路を整備し、安全で快適なまちづくりを進めていく。また、消防車が進入できない路地について、消防機関は状況に応じて小型消防車やホース延長にて対応する。 大規模災害時は消防機関では対応できない可能性があるため、防災会や地域住民が初期消火を行うことができるよう、区では、初期消火用資機材(スタンドパイプ・軽可搬消火ポンプ・街頭消火器)を配備している。 地域住民が有効に初期消火を行うために、防災訓練等に参加し適切な使用方法を習得していただくように普及啓発を行っている。
50	5月29日	旧中野区役所と旧中野サンプラザの間の大木を切らず、残してほしい。	中野駅新北口駅前エリアの緑化方針において、現況の樹木の利活用については、「その場所に残せる樹木は現位置で保存」、「移植が可能な樹木は移植」、「やむを得ず伐採する樹木は材として利用」のいずれかによることとしている。当該樹木については、その位置から現位置で保存できる樹木は極めて少ないと考える。

	開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
51	5月29日	健幸ポイント事業は評価している。子どもが楽しめるような要素を取り入れることで、子育て世帯にとってさらに魅力的な取り組みにしてほしい。	現在、健幸ポイント事業は40歳以上の区民を対象として実施している。今後も、区民が楽しみながら健康づくりに取り組めるよう検討していく。
52	5月29日	地域通貨「ナカペイ」を地域でのボランティア活動と連動させる仕組みがあるといい。	現在、各種地域団体への支援を行っているところであり、引き続き団体活動の活性化につながる取り組みを研究していく。
53	5月29日	ベンチの設置を増やすこと自体は良いが、設置場所周辺にたばこの吸い殻などのごみが発生しやすくなる可能性があるため、清掃体制の整備が必要ではないか。また、地域の人々が話すことのできるように、複数人で座ることのできる大きめのベンチを設置してはどうか。	今後、ベンチの設置後の状況を注視しながら、必要な対策を講じていきたい。また、区有地に設置するベンチについては地域の意向等も踏まえて設置の検討を進めていきたい。
54	5月29日	SNSで健康に関する共通のハッシュタグを区が設定することで、自身の健康活動を気軽に発進、共有できるようにしてほしい。健康に関する意識やモチベーションが向上するきっかけになるのではないか。	現在区では、XやLINEといったSNSにおいて健康に関する講習やイベント等の情報を発信している。ハッシュタグ機能があるSNSについては、情報発信の際に特定のハッシュタグを設定することも検討していく。
55	5月29日 7月5日	歩きたばこやたばこのポイ捨てが多く見受けられ、街の景観が損なわれている。喫煙ルールの周知や喫煙マナーの向上に力を入れるとともに、道路や公園におけるごみのポイ捨て対策や清掃体制の強化を進めてほしい。	現在、マナーアップキャンペーンの実施やポイ捨て禁止の「ステッカー」及び「路面シート」の貼付などにより、歩きたばこ防止や喫煙マナーの向上に努めており、これらの取組を引き続き進めていく。また、道路や公園については、定期的な清掃に加えて掲示による指導等を行っており、今後ごみのない環境の維持に努めていく。

	開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
56	6月7日	子どもが成長したり、きょうだいが増えるにつれ、教育環境を求めて他地域へ転居する家庭が多い。就学後の支援の強化など、子育てのしやすいまちにしてほしい。	家庭の状況、特に経済状況によって左右されることがないように、学習や体験機会の提供、食の支援等に取り組んでおり、令和8年度は、学習支援事業の対象を高校生まで拡大するとともに、新たな食の支援として学校長期休業中に食品を配付する事業を実施する予定である。保護者に対する支援として、令和8年度から、区立小中学校に通う児童生徒を対象に、教材購入、移動教室、修学旅行などの費用を補助する制度を開始する。
57	6月7日	子どもの登校時の見守りについては、現在保護者も協力して行っているが、人手が足りていない。見守りの人数を増やしてほしい。	交通安全指導員を各校の実情に合わせて配置できるように、令和8年度以降、配置時間を拡大する。
58	6月7日	公園のトイレのドアが重く、使いにくい。小さい子どもでも使いやすいように軽量化を進めてほしい。また、冬はトイレの便座を温かくしてほしい。	公園のトイレのドアについては、ユニバーサルトイレ等の改修工事にあわせて、小さい子どもでも利用しやすい施設へ更新を検討していく。多機能便座の導入は維持管理上から難しいと考えている。
59	6月7日	公園にスケートボードやローラースケートができるようなコンクリートスペースを充実させてほしい。	公園においては、スケートボードやローラースケートができるようなコンクリートスペースの設置については安全性、騒音の発生等の課題があると考えている。
60	6月7日	公園にバスケットゴールを設置してほしい。今はバスケットボールをするために、他区の公園を利用している。	現状は、大和公園、谷戸運動公園、上高田台公園、南台公園にてバスケットゴールを設置している。また、現在改修中の上鷲東公園に新たにバスケットゴールを設置する。

	開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
61	6月7日	自転車で車道を走る際に危険を感じる人が多い。 自動車と自転車が走行するところを、色分けするなど視覚的にわかりやすくしてほしい。	中野区自転車利活用計画に基づき、自転車ナビマーク等の設置を進め、自転車が安心して車道を走れる道路環境を整備していく。
62	6月7日	車通りの多い場所は車両の速度を抑制するため、走行車線を蛇行させるように設計するなど、安全対策を講じてほしい。	交差点内の舗装のカラー化や減速マーク等の路面標示を設置し、安全対策を進めていく。
63	6月7日	公園や道路の樹木が長くなりすぎて、見通しが悪くなっている場所があり危ない。定期的な剪定をしてほしい。	樹種や生育状況に応じて、生育に影響がないよう定期的な剪定を実施している。また、越境や繁茂により民家や道路に支障となっている場合は都度対応を行っており、引き続き適切な管理に努めていく。
64	6月7日	地域によってはどこの図書館も遠く、気軽に利用できない。	図書館は概ね自宅から1km圏内に設置しており、利用しやすい配置としている。1kmを超える区域が大きい地域は、貸出・返却等の図書館サービスを提供するサービスポイントの設置を検討していく。

	開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
65	6月7日	放課後や休日に子どもの居場所となるような施設を増やしてほしい。	区内には、放課後の子ども居場所として、児童館、ふれあいの家やキッズ・プラザなどの施設があり、小学校に併設するキッズ・プラザは学校の改築等にあわせて順次整備を進めていく。令和7年度から、委託化した乳幼児機能強化型児童館は毎日(週7日)19時まで開館し、基幹型児童館については週2日19時まで開館する等、多様な子どもの居場所づくりを進めている。 令和8年度には、教育センター分室を活用した暫定的な中高生の居場所づくりを進めていくとともに、既存区有施設における中高生年代の利用促進について検討を進めていく。
66	6月7日	放課後等デイサービスの受け入れ枠が少なく、利用したくてもできないことがある。また、発達支援の必要な中高生が登録なしでも一時的に放課後等デイサービスを利用できるようにしてほしい。	区立障害児通所施設の放課後等デイサービスの受入枠については、利用状況を見ながら検討していく。放課後等デイサービスは児童福祉法に基づいたサービスのため、利用には受給者証の取得が必要になる。
67	6月7日	不登校児への支援を充実させてほしい。	不登校児童生徒への対応施策については、体系的に整備を進めてきたところである。引き続き、令和7年5月に策定した「中野区不登校支援の基本方針」に基づき、学校内外において不登校児童・生徒が自分らしく学ぶことができる環境を整えていく。
68	6月7日	多胎児家庭支援事業を充実させてほしい。	既に、産後ケア事業21回分までの利用料の補助や、3歳未満児の多胎児移動経費補助などを実施している。産後ケア事業については利用回数の増を検討している。

	開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
69	6月7日	特別支援学校の進学、通学にあたって保護者が学校を選ぶ自由があることは評価している。	子どもにとって最適な学びの場所について、本人、保護者の気持ちに寄り添いながら今後も就学相談を進めていく。
70	6月7日	区立中学校で実施されている体育館の個人開放を、上鷲宮小学校や武蔵台小学校などの小学校でも実施してほしい。	学校開放は、学校の授業や行事がない時間帯に開放枠を設定している。開放する施設、日時は学校によって異なる。 現状、小学校での体育館の個人開放は予定していない。
71	6月7日 7月5日	保護者同士の関係を構築する場が少なく、情報共有や相談がしづらい状況にある。子育て家庭や保護者同士が交流できる場(例：BP1プログラム)を提供してほしい。	各児童館では定期的に「子育てなかま作り支援事業」を実施しているほか、委託事業者の運営する「子育てひろば」も、保護者同士が気軽に交流できる場所となっている。 また、ニーズに応じ、産前産後サポート事業などの拡張の検討を行っている。
72	7月1日	毎朝学校が開くまでの間、校舎の前で待っていると、夏は暑くて、雨が降ると大変。校舎の前に屋根やテントを作って、そこで待てるようにしてほしい。	児童の登校時間よりも早く保護者が出勤する家庭の児童が安心して過ごせる居場所をつくるため、令和8年度から順次、学校における早朝見守り事業を実施する。 一定の時間までに登校した場合は、授業開始まで校内で待機することができる。なお、保護者の就労状況に関係なく、利用可能である。 区立学童クラブについては、令和8年度より、希望する家庭が午前7時30分から利用できるよう体制を整える。

	開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
73	7月1日	学校の階段や廊下に手すりを増やしてほしい。自分の祖父が、校内を歩きづらかったと言っていた。	階段手すりについては、多くの施設で設置されているものと認識している。また、廊下の手すりについては、各室出入口や掲示板、荷物掛けフックなどがあることから設置が困難と考えているが、状況を確認のうえ、適宜対応を行う。
74	7月1日	ケガをしている人や障害があって車椅子の人がいたり、吹奏楽の活動で重い荷物を運ぶことがあるので、小さくてもエレベーターを作してほしい。	武蔵台小学校の現在の校舎にエレベーターを設置することは困難であることから、代替となる階段昇降設備の整備を検討している。なお、校舎建替後の新校舎においては、エレベーターを設置していく。
75	7月1日	西武新宿線の工事はいつ終わるのか。開かずの踏切はいつ解消されるのか。	中井駅～野方駅間の連続立体交差事業については、事業の延伸が見込まれているが、今後の工事の進捗状況について、引き続き、都及び西武鉄道と連携し、区民が分かりやすい表現、伝達方法を検討し情報提供を図っていく。 野方駅～井荻駅間については、踏切の除却に向けて鉄道の連続立体交差化計画の検討を進めている。今後も引き続き関係機関と連携を図りながら、計画の早期具体化に向けて取り組んでいく。
76	7月1日	区役所に行くバスが少なく、バス停に屋根がないので、どうにかしてほしい。	バスの増便については、事業者より運転士不足等の影響から実施が難しいとの説明を受けている。そのため、現在の公共交通サービス水準を維持できるように事業者と連携していく。バス停の上屋の設置・管理については、道路が狭く困難な場合が多いが、様々な手法を検討するとともに、バス事業者や広告付きバス停の設置を専門とする事業者等と協議し、待合環境の改善に努めていく。
77	7月1日	クーラーのある、どの学年の子どもも楽しめる居場所を作ってもらえないか。	区内には児童館やふれあいの家があり、乳幼児親子から高校生年代までが利用できる施設となっており、空調設備がある屋内施設である。施設の規模や大きさなど、施設によって違いはあるが、どの年代の子どもにとっても居場所として過ごすことができるよう、運営や事業展開を工夫していく。

	開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
78	7月1日	学校までの登下校の道はコンクリートで、転んだら痛い。プールサイドのようなやわらかい素材にすることはできないか。	道路の状況に応じて、歩きたくなるまちづくりの視点を要素に入れつつ、様々な舗装構造を検討していく。
79	7月1日	学校のみならず、校内にベンチを置くことになった。校庭にあるブランコの撤去が決まっているため、そこにベンチの設置を考えているが、いつ頃ブランコが撤去されるのか。	当該ブランコは、昨年夏休みに撤去した。
80	7月1日	学校の図書室では本が少ない。図書館は知識を深めるために必要だと思う。学校の校庭や中庭に、小さめでもいいから図書館を立てることができないか。	現在の校舎(敷地)に新たに建物を増築することは考えていない。一方で、今後予定している校舎の建替えに際しては、新たな図書室の配置や機能等について検討していく。
81	7月1日	電子黒板で授業をしているが、光の反射で見えない時がある。カーテンを長くするなどの対策が必要だと思う。	令和8年の春休みに、反射防止対策の工事を行う。
82	7月1日	学校の老朽化の影響で、壁や廊下などでトゲが出てしまって、けがをする可能性がある。補修してほしい。	状況を確認し、適宜対応する。

	開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
83	7月1日	公園に運動ができるくらい大きなアスレチックを作っ てほしい。	公園再整備計画に基づき、地域の核となる中規模公園の整備にあわせて、 地域や公園近接者の理解を得ながら、多様なニーズを踏まえた公園整備の 中で検討を進めていく。
84	7月1日	老人ホームや介護施設はもっと増やせないのか。	高齢者介護保険施設は、中野区介護保険事業計画に基づいて整備してい る。今後も需要を見極めながら必要な施設を計画的に誘導整備していく。
85	7月1日	区役所の窓口平日19時まで、土曜日も午前中だけでも開 けてほしい。	来庁者の時間的偏在やオンライン申請の利用状況などを把握の上、来庁者 の利便性への影響や職員の働き方の観点など多角的かつ総合的な検証を踏 まえて研究していく。
86	7月5日	ベビーシッター利用支援事業、産後ケア事業(ショーツ ステイ)はありがたい。産後ショートステイでは、上の 子も一緒に預かってほしい。	産後ショートステイについては、利用できる床数に限りがあるうえ、上の お子さんを預かる場合には、見守りのための人員確保も必要となることか ら、対応は難しい状況である。
87	7月5日	インクルーシブ教育の拡大を図り、健常者の保護者への 相互理解のための講話、障害児の保護者の声を聞くタウ ンミーティングを行ってほしい。	巡回指導拠点校の再編や日本語学級の設置、合理的配慮ガイドラインの作 成などを通して、特別支援教育の充実に取り組んでいる。今後も、一人ひ とりの教育ニーズに応じた教育・指導を推進していく。 また、タウンミーティングにおいても、多様性に留意したテーマ設定な ど、今後検討していく。

	開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
88	7月5日	子育て世帯が周囲と関わりながら子育てできる環境があるとよい。	児童館では、中学校区ごとの基幹型児童館で相談体制を強化し、子育て支援に関する豊富な知識と経験を持った専門の相談員（利用者支援専門員：愛称いくさぽさん）を配置している。相談者のニーズに合わせて、子育てに関する情報を提供したりサービスを受けられるように必要に応じた関係機関・事業とのつながりを支援していく。 また、子育てなかま作り支援事業として、乳幼児親子のみなさんが楽しく遊び、交流できる時間を各児童館で定期的に設けている。
89	7月5日	子どもたちが自由に遊べるプレーパーク、魅力的な遊具のある公園、芝生のある公園がほしい。	子どもが自由にやりたいことができる遊びを実現し、多様な交流や体験を得られる地域の居場所として、区立江古田の森公園内に常設プレーパークを令和7年10月に開設した。土日を含む週5日間開園し、無料で過ごせる子どもと子育て家庭の居場所として運営している。 また、その他の公園についても公園再整備計画に基づき魅力ある公園づくりを進めていく。
90	7月5日	中野駅のバリアフリー化（エレベーター、スロープ、東側の出口）を図ってほしい。	現状の改札やホームを繋ぐ通路及びエスカレーターについては既存のままであるが、現在進められている中野駅駅舎の整備の中で、新たにエレベーターが設置される予定である。
91	7月5日	違法駐車や、スピード違反の取締りを強化し、事故防止を図ってほしい。 保育園近く等では、道路上にバンプを設置する等、車のスピードが出ないようにしてほしい。 また、自転車や電動キックボードの利用マナーを向上させてほしい。	車の速度抑制については、交差点内の舗装のカラー化や減速マーク等の路面標示を設置し、安全対策を講じる。自転車利用者の交通ルール・マナーの向上を図るため、警察署と連携して講習会を実施しており、引き続き実施していく。また、電動キックボードの利用ルール等についても、区ホームページに掲載しているほか、各種イベントや自転車安全利用講習会などの機会を通じて周知を図っており、今後も継続していく。

	開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
92	7月5日	バリアフリートイレの普及を進めてほしい。また、車椅子であっても入りやすいお店を増やしてほしい。	<p>区では、ユニバーサルデザインの観点から、令和7年3月に策定した「中野区有施設のユニバーサルデザイン導入ガイドライン」において、バリアフリートイレの設置を基本項目として明記した。これに基づき、施設整備の際にはバリアフリートイレの設置を促していく。また、通路幅の確保や段差の解消等、移動や利用に関する配慮及びエレベーターやエスカレーターの設置についても基本項目として明記した。これらに基づき、全ての人が利用しやすい施設の整備を促していく。</p> <p>また、バリアフリーの観点から、中野区バリアフリー基本構想に基づき、誰もが利用しやすい環境整備を推進していく。</p> <p>障害者支援の観点では、障害者からの配慮の申出に対し、具体的な場面や状況に応じて柔軟に対応する必要があると考えており、過重な負担とならない範囲で合理的配慮を提供するよう、継続して周知・啓発を進めていく。</p> <p>さらに、子育て家庭にとって利用しやすい環境の充実を図るため、再開発事業等のまちづくりの動きに伴い、子育てに資する施設や子育て世帯の利用しやすい店舗の誘導を進めていく。</p>
93	7月5日	子ども一緒に休息できる店、子ども服の買える店がほしい。	<p>区では現在、区内出店や創業に際し、子育て世帯の利用を想定した店舗の整備にかかる経費を補助している。そうした取組を通じて、区内出店や創業を支援、促進していく。</p> <p>また、子育て世帯が暮らしやすい環境を充実するため、今後、再開発事業等のまちづくりの動きに伴い、子育てに資する施設や子育て世帯の利用しやすい店舗の誘導を進めていく。</p>
94	7月5日	地域公共交通サービスとしてバスの本数を増やしてほしい。	<p>若宮・大和町地域を運行するコミュニティ交通は、橋の架替工事に伴いルートの変更が生じ、令和7年10月より本数を増やして運行している。ルートや運行スケジュールについては引き続き状況を踏まえ、検討していく。</p>

	開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
95	7月5日	児童館などで子ども向けのフリーマーケットを開催してほしい。	児童館によっては、金銭の授受を伴わずに、不要となった子ども用品等を利用者同士で譲り合える場を設けている場合がある。今後も、利用者のニーズを踏まえながら継続して取り組んでいく。
96	7月5日	子育て家庭に対する家賃補助制度を導入してほしい。	区では、経済的な困難を抱えるリスクの高いひとり親家庭が区内で転居する際の費用に対する助成を行っている。一方で、家賃補助については財政負担等を勘案し実施することは考えていない。そのうえで、子育て家庭全般に対する居住支援については、必要とされる取組を検討していく。また、きめ細かな相談支援体制の推進やセーフティネット住宅の登録促進等に取り組んでいくと共に、子育て家庭の住宅環境の向上に向けた取組について、他区の先進事例等も参考に検討を進めていく。
97	7月5日	無認可の民泊について取り締まってほしい。	無許可無届の民泊を探知した際には、実態把握をしたうえで、許可申請や届出等の指導を行っている。
98	7月5日	一時保育を手軽に利用したい。	一時保育の手続の簡素化について検討していく。
99	7月5日	病児保育を気軽に利用したい。また、病気の時にいつもの保育園に預けられるようにしてほしい。	病児保育の手続の簡素化について検討していく。保育園では、他の児童への感染を防止するため、お子さんが病気の時には病児保育をご利用いただいている。

	開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
100	7月5日	水泳などの習い事が充実した施設(例:南部スポーツ・コミュニティプラザ)が近隣にほしい。	区では、スポーツを通じた健康づくりを推進するため、スポーツ・コミュニティプラザを設置しており、新たな施設の整備は予定していない。
101	10月30日	南台地域には空き家が多い。自習室や遊ぶことのできるフリースペースとして有効活用してほしい。	図書館や児童館、なかのZEROや教育センター分室といった区有施設において、子ども専用の学習スペースを設け、自由に利用できる環境を整えている。令和8年度については、教育センター分室を活用した暫定的な中高生の居場所づくりを進めていくとともに、既存区有施設における中高生年代の利用促進について検討を進めていく。 こうした既存区有施設での環境整備に加え、令和8・9年度の空家等対策基本計画改定に向けて、空家等の利活用のあり方も含め検討を進めていく。
102	10月30日	現在、老朽化や危険性の観点から公園の遊具が簡易的になっている。また、遊具には年齢制限が設けられているものも多く、中学生が遊ぶことのできない遊具がたくさんある。 その結果、中学生の遊び場が少なくなっているため、空き家を遊び場として建て替え、中学生の遊び場を提供してほしい。	公園の遊具は指針に沿って子どもでも安全に利用できる遊具を設置している。 中学生の遊び場・居場所については、令和8年度に教育センター分室を活用した暫定的な中高生の居場所づくりを進めていくとともに、既存区有施設における中高生年代の利用促進について検討を進めていく。また、今後は中高生年代向け拠点施設も整備していく予定としており、中高生のニーズを踏まえた機能を盛り込んでいく。 こうした既存施設での環境整備に加え、令和8・9年度の空家等対策基本計画改定に向けて、空家等の利活用のあり方も含め検討を進めていく。
103	10月30日	区内に学習スペースのある図書館があるが、家から遠く通うことのできない人も多い。 空き家を自習室に建て替え、誰もが勉強しやすい環境を整えてほしい。	図書館や児童館、なかのZEROや教育センター分室といった区有施設において、子ども専用の学習スペースを設け、自由に利用できる環境を整えている。令和8年度については、教育センター分室を活用した暫定的な中高生年代の居場所づくりを進めていくとともに、既存区有施設における中高生年代の利用促進について検討を進めていく。 また、空き家の利活用については、令和8・9年度の空家等対策基本計画改定に向けて検討を進めていく。

	開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
104	10月30日	南台地域で川が氾濫した場合、多くの区民は南台小学校や南部すこやか福祉センターに避難することとなるが、施設に人が集中することで一人あたりの利用出来るスペースが少なくなってしまう。空き家に防災の機能を持たせることで、避難所として機能するのではないか。	水害発生時は、一時避難所として区民活動センターにおいて、被災者を保護することとしている。 ただし、浸水被害の範囲が広く、被災者が多数発生することが見込まれる場合は、近隣の小中学校を避難所として開設する。 空き家の利活用については、令和8・9年度の空家等対策基本計画改定に向けて検討を進めていく。
105	10月30日	他の自治体にあるような、静かに集中して勉強したり、本を読むことが出来る図書館のような自習スペースがほしい。新設に伴う費用をかけないように、生徒が下校した後の教室などを活用するといったのではないか。学習スペースを設けることで、学習の習慣化につながる。	図書館や児童館、なかのZEROや教育センター分室といった区有施設において、子ども専用の学習スペースを設け、自由に利用できる環境を整えている。
106	10月30日	区内の公園では、野球などボール遊びが禁止されている公園が多くある。体育館など雨の日でも自由に運動することができる室内施設がほしい。小学生の体力が年々減少傾向にあるというデータもある。子どもから大人まで運動できる室内施設を設置することによって、体力の向上が見込めるのではないか。	区では、スポーツを通じた健康づくりを推進するため、スポーツ・コミュニティプラザを設置しており、新たな施設の整備は予定していない。 また、公園ルールについては、騒音や安全性等の課題があるためボール遊びができる公園とできない公園を分ける運用を行っている。近隣の住環境への配慮とともに、多様な利用者が安心して過ごせるよう、適切なルールについて検討を進めていく。
107	10月30日	区のyoutubeチャンネルの登録者数が少ない。他区に比べ活発性がないことや、企画に興味を惹かれないことが原因ではないか。最近の流行や中野区のお店や各学校の紹介を行うなど、若者向けの動画を作成してはどうか。	現在区公式YouTubeでは、区長記者会見や各種手続きのご案内などの行政情報のほか、区内の児童館や子ども相談室、中高生の居場所事業の紹介など若者向けの情報発信も行っている。今後も引き続き動画による広報を強化していく。
108	10月30日	インフルエンサーや有名人に区のPRを依頼するのはどうか。区の知名度の上昇や、観光客の増加、地域の活性化など様々な効果が期待できる。現在問題となっているふるさと納税による減収も軽減されると思う。	区の実施する施策において、これまでも著名な方は、観光、アニメ関連イベント、区報など、事業ごとに必要となった際にご協力いただいている。引き続き同様に取り組んでいく。

	開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
109	10月30日	<p>空き家は人の気配がなく、管理が行き届いていないことから、発火や放火のリスクがある。</p> <p>フリースペースとして活用することによって、人通りが多くなり管理しやすくなるのではないか。</p>	<p>令和8・9年度の空家等対策基本計画改定に向けて、空家等の利活用のあり方も含め検討を進めていく。</p>

	開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
110	12月22日	区職員だけでなく、区民が年齢を問わずデジタルスキルを学べる場を設けてほしい。	スマートフォン講習会や相談会など、区民がデジタルスキルを学ぶ場は、現在民間団体や、自主活動団体が実施しているところである。区や民間団体それぞれの役割分担において適切に実施していく。
111	12月22日	高齢者の見守り体制を強化するため、近隣住民同士が助け合える仕組みや、急な音信不通時に異変に気づけるようなデジタル技術の活用を進めてほしい。	今年度、産学公連携による共同研究を実施し、地域活動を起点とした高齢者の見守りにつなげるアプリの開発の実証実験を、区民活動センターや高齢者会館において進めてきた。次年度以降、この研究を深度化させ、デジタル技術を活用した新たな見守りの仕組みを構築していく。
112	12月22日	区民活動センターや健幸プラザでは、車いすを使用している重度心身障害児(者)がおむつ替えできない状況なのでユニバーサルシート付トイレを整備してほしい。	令和7年3月に策定した中野区区有施設のユニバーサルデザイン導入ガイドラインにおいて、介助用ベッドの設置を検討項目として明記した。これに基づき、区有施設の整備時に設置を推進していく。また、設置が難しいような場合においては、ソフト面やハード面での工夫を図っていく。また、健幸プラザは現在車いす対応施設となっていないため、当面現行の施設で対応できる方策について検討を進める。
113	12月22日	(仮称)国連を支える世界こども未来会議 in NAKANOIについて、認知度が低いと、広報を強化してほしい。多様な意見を発表する場は教育上ますます重要になると思う。	子どもが様々な場面で多様な意見を表明できるよう、ワークショップを通じて子ども自身が自分の住むまちの未来について考え、発表するチャレンジの機会を創出していく。多くの子どもたちに知ってもらえるよう、様々な媒体を通じて周知・広報を工夫していく。
114	12月22日	専門学校や大学進学を見据えた高校生への支援においては、学力面の支援のみならず、進路・職業の選択にかかる支援等、自分のやりたいことを見つけるための支援を充実させてほしい。	経済的理由により高等教育への進学又は修学が困難だが、学びの意欲のある若者へ奨学資金を給付することにより、若者のチャレンジを支援する取組を行う。(令和8年度募集、令和9年度給付開始)

	開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
115	12月22日	英語で「聞く・考える・答える」など実践的な学びを通じて、使える英語力を育ててほしい。	各校では、英語でのやり取りを通して、自ら考え、表現する力を育むことを重視した授業を行っている。また、ALTの配置やペア・グループでの対話的な学習など、コミュニケーションや言語活動を積極的に取り入れた授業を展開し、実践的な英語力の育成を図っている。
116	12月22日	可能な限り英語を母語とするALTを配置し、子どもたちが正確な英語に触れられる環境を整備してほしい。	ALTを配置することは、子どもたちが生きた英語に触れ、意欲を高め、異文化理解を深めるとともに、聞く・話す力を育成する上で極めて重要であり、英語教育の質を大きく向上させる意義があると考えている。そのため、ALTの配置に際しては、英語による発語のリズム、イントネーション及び発音が教科書に準じているということを要件とし、子どもたちが正確な英語に触れることができるように環境を整備している。
117	12月22日	SNS相談の対象を小学5～6年生に広げる理由や必要性について、丁寧な説明と理解促進を図ってほしい。	SNS相談を含む多様な方法により、いじめや悩みごとを相談できる手段の整備は、多感な時期にある児童・生徒一人ひとりにとって重要なことと考える。 いじめの早期発見と抑止力を生み出すため、また、いじめを許容しない集団の雰囲気醸成するための授業を実践し、問題の深刻化を未然に防止するため、SNS相談を利用できる対象者を小学校5・6年生に拡充する。
118	12月22日	養子や里子を迎えた場合、日本ではいじめの対象になることが懸念される。 小学校低学年向けのいじめ防止動画では十分ではない。 国内初のいじめ自殺事件(旧：中野富士見中学校)を出した中野区としては、その経験を生かし、多様ないじめ対策を講じてほしい。	これまで行内体制の整備、相談体制の充実、いじめの授業や子どもを主体とした取組、教職員研修等多様ないじめ対策を行っている。今後もこれまでの取組は継続しつつ、より良い人間関係を構築する態度を養うため、小学校低学年向けのいじめ防止動画を制作し、子どもたちが良好な人間関係を築くための素地を養っていく。

	開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
119	12月22日	学力に差がある中で、すべての児童生徒に同一の教材費がかかることに対して不安に感じている。学校現場の実情を最も把握しているのは学校だと思われるが、教材の選定や費用に関して、学校にどの程度の裁量があるのか知りたい。	現在、教材費については保護者負担となっており、少ない費用で大きな効果が得られるよう執行を工夫し、保護者負担の軽減に努めてきたところである。令和8年度から公費補助が開始されても、基本的な考え方に変更はない。ただ、これまでは各学校の裁量で教材費の徴収額を決めていたところだが、公平性の観点から、公費補助額は全学校同一の金額(上限額)とする。なお、教材の選定についてはこれまでとおり各学校の裁量とし、補助額の範囲内で購入することになる。教育委員会への届出が必要であるが、学校が作成する教育課程の内容に合わせて各学校の裁量で選定することができるため、全学校で同一の教材を使用するというではない。
120	12月22日	高額なタワーマンションの再開発が進めば、外国人富裕層が区内に居住するものと予想される。これに伴い、外国人の子どもたちの人口が増加する可能性があるため、こうした変化に対応するための対策を検討してほしい。	これまでの交際交流協会の日本語指導に加え、日本語サポートデスクや区立小学校3校、区立中学校1校への日本語学級の設置など、日本語指導が必要な児童生徒一人ひとりが丁寧なアセスメントに基づいて設計された学習プログラムに即して日本語指導を受けられるようにする。
121	12月22日	次々と学校が合併され、学校数が減ることで通学の距離がかなり長くなっている。通学の距離等を適切に調整して学区設定を行ってほしい。	現在の学区は、徒歩による通学の検討のほか、学区は生徒数や、学校規模などを踏まえ決定されたものであるため、学区そのものの変更は考えていない。
122	12月22日	放課後の子どもの居場所づくりとその充実、行政が解決すべき課題である。プレーパーク事業の充実がうたわれる一方で、平和の森公園の樹木の伐採や、児童館の存続が危ぶまれる状況があり、以前に比べ子どもたちにとっての居場所の環境が悪化している。	「子どもの遊び・体験の場の確保」として、子どもが快適で自由に過ごせる公園づくりを進めるとともに、子どものやりたいことができる遊びを実現し、多様な交流や体験を得られる地域の居場所として、プレーパーク事業を推進している。令和8年度は、プレーパーク活動が行われていない地域へ出張して、イベント形式でプレーパーク活動を行う事業への補助を実施する等、多様な子どもの居場所づくりを推進していく。

	開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
123	12月22日	学区の広域化により通学時間が長くなる中、踏切を渡る子どもたちのために、環境を整え、責任ある大人の見守り体制を確保してほしい。	通学時の見守り体制の確保にあたっては、交通安全指導員を各校の実情に合わせて配置できるように、令和8年度以降、配置時間を拡大する。
124	12月22日	朝の子どもの居場所は、学校によっては対応にばらつきがある。居場所が確保されていないことで、校門の前で長時間待たされる子どもも見受けられる。居場所が確保できない場合、学校は保護者に説明すべき。PTAへの働きかけにもつながるのではないか。	各区立小学校において、令和8年4月以降順次、「児童の早朝見守り事業」を実施する。午前7時30分(開門時間)から始業時間まで、利用を希望する家庭の児童(1~3年生)を対象に、図書室や体育館などで見守りを行う。 区立学童クラブについては、令和8年度より希望する家庭が午前7時30分から利用できるよう体制を整える。
125	12月22日	働く親にとっては、子どもの安全確保のため、下校後や習い事への送り迎え等で子どもの居場所がぜひとも必要である。朝以外の時間帯でも、居場所をつくってほしい。	児童館では、委託化した乳幼児機能強化型児童館は毎日(週7日)19時まで、基幹型児童館については週2日19時まで開館しており、子どもの居場所づくりを推進してきている。今後の利用者のニーズや職員体制を踏まえつつ、今後の拡充を検討していく。
126	12月22日	現行のベビーシッター利用支援(一時預かり利用支援)では、きょうだいがいる場合でも利用時間が子どもごとに144時間ずつに分けられており、合計288時間として利用することができないため、利用時間の拡充を検討してほしい。また、障害児やひとり親世帯への支援に限らず、急病時などにも利用できるようにしてほしい。	一般世帯のベビーシッター利用支援事業(一時預かり利用支援)の利用上限時間引き上げについては、今後の利用状況等を踏まえ検討を行う。また、急病時に利用できる制度について、都のベビーシッターを利用した病児保育に係る検証事業の動向を見ながら検討していく。
127	12月22日	民間の子育て支援サービス「育児119」は柔軟性のあるサービスを行っている。こうした民間のサービスと区は連携してほしい。	新たな民間サービスとの連携については、今後検討していく。

	開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
128	12月22日	0歳からシニアまでが共に過ごせるインクルーシブな施設をさらに増やしてほしい。	障害の有無やその年齢に関わらず、多様な方々が共に過ごせる場の整備については、当該施設における主たるサービスとの関係や、ハード面の課題等も含め、実現可能なあり方について、関係部署と連携の上、調査やヒアリング等を重ねながら検討を行っていく。 また、区内15か所ある区民活動センターは、高齢者、子連れの方など様々な方が利用できる。引き続き地域活動での活用や様々な利用者にとって使いやすい環境となるよう工夫していく。
129	12月22日	産休、育休期間の保育時間の短縮を任意にしてほしい。	区では、保護者のご意向を踏まえ、保育時間を決めていただくよう各保育園に周知している。
130	12月22日	乳児等通園支援事業を利用できる施設が少なく、募集人数も限られているため、利用したくてもできない状況がある。民間の保育施設などでもこの事業を展開してもらえると、より多くの家庭が利用しやすくなるのではないかと。また、新しい事業のため認知度がまだ低く、特に子育てに忙しく外部とのつながりを持ちにくい家庭には情報が届きにくい。そうした家庭にも届くよう、情報発信をもっと強化してほしい。	乳児等通園支援事業について、令和7年度においては、試行的事業として実施しており、実施施設が限られている状況である。令和8年度以降においては、制度が本格実施されるため、民間の保育施設に対して実施を促し、実施施設数の拡充を図っていく。また、利用者に対しての制度の周知についても、区ホームページや区報等により、情報発信を強化していく。
131	12月22日	児童館によっては設備が十分でなく、子どもがあまり行きたがらないこともある。もっと子どもが行きたいと思えるような、魅力のある児童館を増やしてほしい。	「中野区児童館運営・整備推進計画」に基づく計画的な修繕や大規模改修のほか、設備等の維持補修を実施していく。

	開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
132	12月22日	児童館でのイベントが少ないので、すこやか福祉センターでの子ども向けのイベントを増やしてほしい。	児童館でのイベントの回数や内容については、利用者のニーズを踏まえて充実を図っていく。 また、すこやか福祉センターでは、子どもの発育や発達、子育てや離乳食など子どもに関する事業に加え、子どもと一緒に参加可能な健康に関する講座の開催や、地域イベントへの参加なども行っている。これらの取組についても、活用していただきたい。
133	12月22日	産後ケア事業の利用回数を増加してほしい。 現状、子どもの体調不良などによって前日にキャンセルした場合でも、1回利用したものと見なされ、利用回数が減ってしまう。 子どもが増えるにつれ、体調不良のリスクも高くなるため、特に2人目以降の利用者に対しては、キャンセル時の対応を柔軟にしてほしい。	産後ケア事業の利用回数については、需要と供給のバランスも含め現在の回数で実施を行い、キャンセル時の対応については、検討を進めていく。
134	12月22日	産後ドゥーラ訪問ケアの利用ルールを緩和してほしい。	産前家事支援事業については、令和8年度から産後家事支援事業と統合し、利用要件を緩和する。
135	12月22日	トータルケア事業とされているものの、産前に関しては特定の条件がないと利用できない。第2子の妊娠時に上の子どもの世話が大変だった。複数児家庭の利用上限も増やしてほしい。	産前家事支援事業については、令和8年度から産後家事支援事業と統合し、利用要件を緩和する。また、利用回数についても拡充を行っていく。
136	12月22日	1歳児以降の育児支援を拡充してほしい。2人目、3人目の育児に取り組む際の基盤づくりにつながると考えている。	1歳児以降の支援として、ファーストバースデーサポート事業や、地域育児相談会の実施を行っている。また「0歳のあかちゃん・集合！」など児童館での事業開催などを行い、地域に繋がるきっかけ作りを行っている。

	開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
137	12月22日	幼稚園や保育園に入るまでの時期、参加できるコミュニティが足りない。 気軽に参加できるよう、コミュニティづくりや広報に力を入れてほしい。特に、デジタルを活用した参加の仕組みがあるといいのではないか。	電子母子手帳の導入を契機にプッシュ型通知機能の活用などを行っていく。
138	12月22日	1人目の赤ちゃん、2人目以降の赤ちゃんを育てている親と赤ちゃんと一緒に参加するプログラム(BP1、BP2)の回数を増やしてほしい。	現在BP1を各すこやか福祉センター圏域で年4回～5回、BP2を年1回～2回実施している。当講座は連続4回、または5回の実施となるため、会場及び人員の確保が課題となっている。回数増については引き続き検討を行っていく。
139	12月22日	レスパイトの利用場所を自宅に限らず多様な場所で利用できるようにしてほしい。18歳以上の方も幅広く利用できるように支援を充実させてほしい。	重症心身障害児(者)等在宅レスパイト・就労等支援事業については、学校等屋外におけるケアの拡充を計画しているところである。この拡充の中で、訪問看護事業所と課題を共有し、支援の充実を図っていく。
140	12月22日	スポーツ推薦で高校に進学する生徒も、経済的支援が受けられるよう給付型奨学金の対象に含めてほしい。	若者のチャレンジを支援するため、経済的理由により高等教育への進学又は修学が困難だが、学びの意欲のある若者へ奨学資金を給付する事業である。(令和8年度募集、令和9年度給付開始) 対象としては、大学・短期大学、高等専門学校(4・5年生)、専門学校への進学予定者及び在学学生を対象として実施する予定である。

	開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
141	12月22日	全国大会で活躍した中野区出身の選手に報奨金を支給してほしい。また、特に母子・父子家庭の子どもたちへの経済的支援を充実させてほしい。	スポーツなどで活躍する子どもを対象として報奨金を支給する仕組みを作る予定はないが、そういった子どもたちを応援できる方策については検討していきたい。 ひとり親世帯については経済的な課題を抱えやすいため、学習や体験機会の提供、食の支援等、幅広い支援を行っていく。
142	12月22日	北部すこやか福祉センターでの子どもの検診時、裸で廊下で待機するのは辛いので、改善してもらいたい。	令和7年11月より、3歳児健診の待機時には上着等を着用していただくよう案内を変更した。今後も、プライバシーへの配慮や待機時間の短縮などの工夫を行い、子どもの健診を安心かつ快適に受けられるよう、改善に努めていく。
143	12月22日	在宅医療を支えるには、地域全体での助け合いが不可欠なので、地域包括支援センターとの連携を強化してほしい。	在宅医療において、地域包括支援センターとの連携は日頃より行われているが、在宅医療・介護における連携体制を強化していくために、在宅療養推進協議会において検討を進めていく。
144	12月22日	がん患者に限らず、心不全・腎不全・脳梗塞・心筋梗塞などの患者にも、アピアランスケアにかかる費用の支援を行ってほしい。	令和8年度より、アピアランスケア用品購入費用助成事業の対象者をがん患者に限定せず、外見の変化を伴う病気や怪我により地域生活に支障があり、アピアランスケア用品を必要とする方へ拡大する。

	開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
145	12月22日	高齢者会館の設備には格差があり、階段の昇降が必要な施設は利用が難しい人もいる。人への支援だけでなく、施設的环境改善も進めてほしい。	老朽化している施設や賃貸物件のため改修が困難な施設について、改修や現状の範囲で対応可能な改善について検討を進める。
146	12月22日	ビジネスケアラーを増やさないために、夜間も高齢者を安心して預けられる体制を整えてほしい。	介護保険のショートステイ等の夜間にも利用できるサービスについて、必要な情報を適切に発信していく。また、今後計画に基づいて工夫しながら施設整備を検討していく。
147	12月22日	成年後見人・補佐人・補助人を必要とする人は増加しており、質の高い人材を確保するためにも、職務に見合った適正な報酬を支給してほしい。	成年後見人等への報酬については、区基準による助成金額の上限を撤廃し、家庭裁判所の報酬付与の審判で定められた成年後見人等に対する報酬額を全額助成する。 また、国においては成年後見制度の見直しに向けた検討が進められており、その中で、成年後見人等が行った事務の内容を適切に評価し、報酬に反映できる仕組みについても検討されている。
148	12月22日	短期入所について、医療的ケアが必要な方や人工呼吸器を使用している方も利用できるようにしてほしい。一番支援を必要とする人が安心して利用できる体制を整えてほしい。	既に、障害者支援施設江古田の森で医療的ケアを必要とする方への短期入所事業は実施しており、江古田三丁目重度障害者グループホームについても同様に実施予定である。呼吸管理が必要な方については、体調や必要となるケアの内容、人員体制や他利用者の状況を踏まえつつ、受け入れの可否を個別に判断しながら利用できるよう対応する。
149	12月22日	委託先の医療的ケアや重症心身障害児(者)への知識や経験に不安があるため、実績のある事業者をアドバイザーとして加えるなど、利用者の視点に立ったビジョンを持って設計段階から取り組み、渋谷区のように質の高い施設を整備してほしい。	施設の設計段階から運営事業者が参画し、医療的ケアを実施するグループホーム等の見学及び意見交換を通じて知見を共有するとともに、当事者関係団体からも意見を聴取し、利用者の視点を反映しながら整備を進めている。 今後も、事業者および関係団体と連携し、利用者が安心して暮らせる質の高い施設づくりに取り組んでいく。

	開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
150	12月22日	一時保護について、短期入所の空きがあるときのみ利用可能では、必要なときに利用できない恐れがある。異なる目的のサービスとして、別の場所で提供できる体制を整えてほしい。	実現可能な日中一時支援事業のあり方について、調査やヒアリング等を行い、他サービスとの調整を図りながら検討を進めていく。
151	12月22日	以前、類似したサービスを利用した際、外国人スタッフが勤務していたが、日本語のコミュニケーションを円滑に行えず、適切な支援を受けることができなかった。外国人を雇用する場合には、日本語もあわせて学ぶ機会を設けてほしい。	令和8年度に外国人障害福祉人材のための日本語学習の機会の提供予定はないが、福祉人材の育成のための施策については、ニーズに合わせて今後も検討を続けていく。
152	12月22日	エアコン購入費助成事業の対象を生活保護世帯に限らず、申請に至らないが困っている人にも支援の手が届くよう、助成対象を拡大してほしい。	エアコン購入費助成事業の対象者は、収入面だけでなく、資産についても調査を行い、最も経済的に厳しい環境にある生活保護世帯とした。また、熱中症リスクは高齢者等ばかりではないため、高齢者等に限定していない。このため、近年の猛暑にもかかわらずエアコンを購入できない生活保護世帯について、設置実態を調査し、その結果も踏まえ、故障も含めたエアコン未設置の生活保護世帯を対象としたものであり、対象者の拡大は考えていない。
153	12月22日	もの忘れ検診の受診率や効果などを公表してほしい。	もの忘れ検診の受診者数・受診率については、現在、区ホームページにて公表している。検診結果や認知症予防、進行防止等を促すフォロー講座の実施状況など、区民にわかりやすい情報発信に努めていく。
154	12月22日	起立性調整障害の認知度が低いため、区として啓発に取り組んでほしい。特に、通学中の子どもにとって、周囲の病気への理解が不足していることで、いじめや不登校につながるおそれがある。まずは、子どもと日々接する教員が病気への理解を深めることが必要ではないか。	子どもたちが安心して学校生活を送るためには、病気に対する正しい理解を広げることが重要であり、まずは日々子どもと接する教員が適切な知識を持つことが不可欠であると認識している。区としても、起立性調節障害に関する啓発の必要性を認識しており、今後、教員研修のあり方について検討していく。

	開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
155	12月23日	男女共同参画センター普及啓発事業は長年続けてきた取り組みであるため、これ以上税金を使う必要があるのか疑問に感じている。無駄がないか見直してほしい。	女性の活躍推進の機運が高まるなか、今後の男女共同参画センターの拠点施設整備も見据えて、男女共同参画に関する普及啓発の強化が必要であると考えている。講座等の企画及び運営の一部を、専門的知識をもつ民間事業者・団体に委託し、従前の区民向け講座に加え、新たに区内事業者向けの講座等を充実させるなど、より多角的なアプローチにより事業を推進していく。
156	12月23日	日本語を学ぶだけでなく、外国の言葉を学びたい人同士が教え合えるような交流の場をつくってほしい。	中野区国際交流協会では、英語・中国語・韓国語の講座を実施しており、外国語を学びたい人同士の交流の場になっている。区としても、同事業の周知を引き続き行っていく。
157	12月23日	中野サンプラザパフォーマンスフィールドの利用者に音響設備機器の貸し出しを行うなど、利用しやすい環境を整備してほしい。 また、事前審査の基準を明確にした上で、誰でも利用しやすい仕組みにしてほしい。	令和8年度において、貸出用蓄電池等の備品整備を予定している。パフォーマンスの登録については、場所の特性や周辺状況、安全性などを踏まえながら選考している。
158	12月23日	小中高生アニメ体験事業の実施にあたっては、子どもに限らず大人や外国人観光客に向けても実施を検討してほしい。	小中高生アニメ体験事業はその対象を限っているが、中野区のアニメ事業全体では、国内外からの来街者を含めた幅広い年代を対象としており、令和8年度においても各種イベント等を実施していく。
159	12月23日	産業振興センターで行っている支援の内容や、利用するメリットを周知してほしい。 また、支援の内容にスタートアップ支援を含めてほしい。	産業振興センターが行っている支援内容については、区ホームページやSNS等を通じて周知をしているところであるが、利用するメリットについても伝わるよう工夫していく。 また、創業相談をはじめとしたスタートアップ支援も行っており、そうした支援内容も分かりやすく情報発信していく。

	開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
160	12月23日	デジタル地域通貨事業は、スマートフォンを所持していないと利用できない仕組みのため、プレミアムキャンペーンなどの施策において、すべての区民が平等に利益を受けられないのは問題ではないか。	ナカペイは区内経済・産業の活性化、区内事業者の経営力強化を目的としているものであり、事業の費用対効果や店舗側の負担を考慮し、スマートフォンアプリのみでナカペイの発行・決済を行うこととしている。
161	12月23日	ナカペイで支払った際にポイント還元が受けられるなど、利用によるメリットを設けてほしい。また、まちを歩くことでポイントがもらえるようなイベントの実施も検討してほしい。	次年度はこれまで実施してきたプレミアム付ナカペイの販売に加え、抽選式ではない通常のチャージにもポイントがつくキャンペーンも実施する予定である。 また、区のイベントへの参加や毎日の歩数に応じてポイントがもらえる健康ポイント事業を令和7年度から開始しており、次年度も実施予定である。
162	12月23日	ナカペイがどれだけ使用されているのか、データを公表してほしい。 一部の利用客に偏っているのではないか。	ナカペイの利用データ等の公表を検討している。
163	12月23日	支払い金額の自動入力等を導入し支払い処理のスピードを改善してほしい。また、購入できない商品についての案内をもっとわかりやすくしてほしい。	支払い金額の自動入力は、店舗側の費用負担等も含め導入は難しい。 また、購入できない商品の案内については、該当の加盟店に対し、ナカペイでの購入不可商品に関するポスターの掲示を改めて依頼していく。
164	12月23日	区境に住んでいる住民にとっては利用できるお店が少なくナカペイに魅力を感じない。店舗利用に留まらず、健康診断のオプションにコミュニティポイントを利用できるようにするなど、利用の幅を拡大してほしい。	今後も区境にある店舗を含む区内全域の店舗の加盟店開拓を実施する。また、現在一部医療機関でナカペイが利用可能である。引き続き、ナカペイを利用できる店舗や施設を増やしていけるよう周知等を行っていく。

	開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
165	12月23日	中野サンプラザの工事を中止し、見直ししてほしい。	中野サンプラザの再利用については、「中野駅周辺まちづくりグランドデザインVer.3」で描いているまちの将来像や、再整備により得られる様々な効果が十分に実現できないことから、考えていない。 また、区は「中野駅周辺まちづくりグランドデザインVer.3」等に基づき、駅周辺各地区におけるまちづくりを一体的に展開するとともに、駅の改修や交通広場をはじめとした様々な整備を進めている。その核となる中野駅新北口駅前エリアにおいては、そのポテンシャルを十分に活かし、次世代以降に引き継ぐことができ、区民が誇らしく思える、100年先を見据えたまちづくりを実現していく。
166	12月23日	中野サンプラザの老朽化を前提としているが、これは建物自体を調査したことによる見解ではない。中野の文化、歴史の象徴であるサンプラザを継承するまちづくりを進めてほしい。ホール部分を改修・暫定利用を行い、収益を得るべきである。	「中野駅周辺まちづくりグランドデザインVer.3」で描いているまちの将来像や、様々な機能や効果が実現できることから、中野サンプラザと旧区役所の敷地を一体的に整備することが前提になると考えており、中野サンプラザを再利用する調査等を実施することは想定していない。 中野駅新北口駅前エリアのまちづくりについては、中野サンプラザのDNAの継承や、親子が楽しめる機会と空間、区民が文化・芸術に触れ、活動する機会などを着実に創出し、100年先も中野の顔として区民に愛される施設の実現に向けて取り組んでいる。 また、中野サンプラザの南側広場に面する建物の一部の暫定的な利用については、現在、各種法令と照らして、その可能性を検証している。
167	12月23日	中野サンプラザを貸し出す際は、料金の有無に関わらず、電気や水道、トイレなど最低限の設備を整えた上で提供してほしい。	中野サンプラザの再利用については、「中野駅周辺まちづくりグランドデザインVer.3」で描いているまちの将来像や、再整備により得られる様々な効果が十分に実現できないことから、考えていない。
168	12月23日	中野サンプラザの1, 2階を改修の上、再利用してほしい。 また、中野駅から近い立地を活かし、喫茶店の誘致など、にぎわいを創出してほしい。	中野サンプラザの再利用については、「中野駅周辺まちづくりグランドデザインVer.3」で描いているまちの将来像や、再整備により得られる様々な効果が十分に実現できないことから、考えていない。 にぎわいの創出にあたっては、アニメによるプロモーションをはじめとした、中野サンプラザの暫定活用を行うことを通して、商店街や区内事業者・団体等多様な主体と連携し、集客力・発信力のあるイベントの支援・誘導を進め、にぎわいが途切れないようにしていく。

	開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
169	12月23日	サンプラザ地区の再整備にあたっては、ホテルを導入することで収入を得てはどうか。 中野区にはホテルが少なく、インバウンドが多いことから多くの収入が見込まれる。	これまでの再整備事業計画では、交流人口に寄与する施設や機能について、交流の拠点となるホテルの導入も想定してきたところである。ホテル導入の可能性についても引き続き検討していく。
170	12月23日	中野駅新北口駅前エリアの再整備の方針を決定するにあたっては、災害対策やインバウンド対応等を含む再開発の目的を明確に示してほしい。	中野駅新北口駅前エリアの再整備により、区民や来街者の増加による周辺商店街を含めた地域の消費喚起や経済効果の拡大、企業誘致と雇用の創出、税収増による区民サービス向上に資する政策への展開、快適な緑空間の創出や緑化の促進、環境負荷の低減やウォークアブルなまちなどの実現が期待できる。 また、駅周辺の東西南北を一体としたまちづくりの一環として行うことや、再整備によって実現可能なことを、様々な機会を通じて、わかりやすく発信していく。
171	12月23日	中野駅新北口駅前広場の整備にあたっては、工事により通行できない道が生じることから、滞留可能なベンチの設置や、新たな導線となる道を案内する看板の設置を行ってほしい。 また、ベンチの設置に伴い、ごみのポイ捨てなどの問題がつかぬおそれがあるため、そうした課題への対策もあわせて講じた上で設置してほしい。	中野駅新北口駅前広場の整備は、令和11年度末までの長期にわたり歩行者動線の切替えを行いながら進めていくことから、歩行者動線切替えに関する情報発信を積極的に行うとともに、ベンチなどの配置も適宜検討していきたい。
172	12月23日	中野駅新北口駅前広場の整備にあたっては、デッキの設置は控えてほしい。下が日陰となることで利用しづらくなり、土地の有効活用が妨げられるおそれがある。	新北口駅前広場の歩行者デッキは、中野三丁目の桃園広場から新たな中野駅西改札を經由し、中野四季の都市や団町地区、さらに将来的には中野五丁目や中野区役所までを歩車分離かつバリアフリーでつなぐための重要な施設である。当該歩行者デッキについては、駅前広場内が暗くならないよう、適正な規模、意匠で整備を実施していく。

	開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
173	12月23日	中野サンプラザ広場の時計を再び動かしてほしい。また、防災の観点からも、夕方にはサンプラザ建物1階の照明を点灯してほしい。	時計台の修理を実施するためには、調査に必要な電気を時計台へ供給する必要がある。しかし、現在解体予定である中野サンプラザではインフラ設備が既に停止していることから、まず時計台調査に必要なインフラ設備を一部復旧させる必要がある。その後、調査を実施することで修繕費の算定が可能となる。また、時計台の稼働及びにあたっては建物に関する関係法令の整理も必要となるため、引き続き検討していく。 また、中野サンプラザの南側広場に面する建物の一部の暫定的な利用については、現在、各種法令と照らして、その可能性を検証している。
174	12月23日	タワーマンションが次々と建てられることで、外国人人口の増加が見込まれる。それに伴い、移住者の受け入れ体制の整備が必要となり、その観点から中野サンプラザの跡地に超高層ビルを建設する計画に懸念がある。	現行の再整備事業計画では、「持続可能性を高める用途構成や機能」を基本方針として定めており、職住近接を実現するレジデンスの導入を図るものであった。拠点施設に求められる用途については、区民意見やサウンディング型市場調査で得た情報を踏まえながら再整備事業計画の見直しの中で検討を進めていく。
175	12月23日	今年2月に中野区長宛に出された日本建築家協会の「要望書」の内容を受け止めてほしい。サンプラザは200年はずっと建物だとする専門家の意見を施策や計画に取り入れるべきである。	中野サンプラザの再利用については、「中野駅周辺まちづくりグランドデザインVer.3」で描いているまちの将来像や、再整備により得られる様々な効果が十分に実現できないことから、考えていない。 再整備事業計画の改定に向け、今後も適宜、意見交換会等を実施する予定である。
176	12月23日	中野駅周辺まちづくりに関する説明会はオープンハウス形式ではなく、意見をしっかりと伝えられる場にしてほしい。	今後の意見交換会にあたっては、まちづくりの経緯や現況及び区の実情をわかりやすく、適時発信することに努めるとともに、インターネットを活用した意見募集の活用等、より多くの方からの意見聴取ができるよう工夫していく。

	開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
177	12月23日	災害時に避難所が足りるのか不安に感じている。区内の人口密度が高いことから、避難者の偏りや避難所のたらいまわしが想定されるため、対策を講じてほしい。	収容想定人数を超える避難者が避難した場合や、避難所が被災して使用できない場合には、各避難所の状況を迅速に把握し、収容スペースに余裕のある他の避難所への移送を行うこととしている。
178	12月23日	転入者に対して区が積極的に防災に関する情報を発信してほしい。	転入手続きの際に配布している「生活ガイド」において、防災情報の周知を図っている。引き続き、区ホームページや防災情報メール等の各種媒体を活用し、情報発信の充実化に向け取り組んでいく。
179	12月23日	避難所に向かうにあたっては、要配慮者（高齢者・幼児・外国人）のみならず、外国人に対する事前のルート確認が必要である。また、ペット同伴者に対する訓練についても取り組んでほしい。	多言語ややさしい日本語による防災パンフレット（中野の防災）の周知を進めるとともに、総合防災訓練や地域訓練において要配慮者や外国人の参加を促すことに加え、ペット同行避難等の実践的な訓練を継続していく。
180	12月23日	ナカペイを使用したコミュニティポイントの付与では、受け取れる人が限られてしまうため、他の方法を検討してほしい。	集合住宅防災訓練実施者へのコミュニティポイント付与にあたっては、集合住宅の管理組合など訓練主催者への一括付与も可能としており、備蓄物資の整備など集合住宅全体の防災対策に活用できる仕組みとなるよう取り組んでいく。
181	12月23日	コミュニティポイントの付与によって、集合住宅での防災訓練の参加率がどれくらい増加したのか、公表してほしい。	集合住宅における防災啓発にあたっては、毎年度の評価・検証を行いながら改善を図っていくこととしており、その過程で把握できた傾向や効果についても、可能な範囲で示せるよう取り組んでいく。

	開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
182	12月23日	防災まちづくりを進めていくにあたって、建築コストが年々上昇している現状を踏まえ、現在の助成金の水準が実態に見合っているのか疑問に感じている。物価の変動に応じて、助成内容の見直しを検討してほしい	防災まちづくりで実施する建て替えや除却に関する助成については、建築コストの上昇等を踏まえ、都と協議し補助金額等の見直しを行っている。
183	12月23日	特定の地域に限定せず、他の地域でも防災まちづくりの支援を検討してほしい。	区では地震における危険度が高いエリア（整備地域）で重点的な防災まちづくりを実施している。それ以外の地域でも、都と協議しながら、災害に対する危険度に応じて段階的な防災まちづくりを検討している（防災環境向上地区など）。
184	12月23日	バリアフリー化実現に向けた調査で終わらず、早急に具体的な整備に着工してほしい。	中野駅東口のバリアフリー化は、令和8年度策定予定の「東中野駅東口周辺まちづくり基本方針」に具体的な取り組みとして記載している。これまでの区の調査の結果、施設の設置にあたって課題があることから、現在、鉄道事業者と検討を行っており、早期の実現に向け、引き続き取り組んでいく。
185	12月23日	西武新宿線の上部空間は公園や駐車場、防災拠点として活用してほしい。	西武新宿線の鉄道上部空間については、区民アンケートにおいても、公園や防災機能の確保といった意見が多く寄せられている。区としては「西武新宿線（中井駅～野方駅間）鉄道上部空間活用に関する基本方針」の策定に向け検討を進めており、地域住民等の意見を聞きながら、都や鉄道事業者と協議・調整を図っていく。
186	12月23日	中井～野方駅間の駅周辺は細い道路も多く危険なため、拡幅を行ってほしい。	中井～野方駅間の周辺は、狭い道路や歩行者と車が混在する区間が多いなど、防災・安全上の課題があることは認識している。沿線全体や各駅周辺のまちづくりの中で、交通環境の改善について検討を進めるとともに、関係機関と協議していく。

	開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
187	12月23日	連続立体交差事業に伴う鉄道上部空間活用にあたっては、住民をまじえた先行事例の現地視察、住民と職員との懇談といった実体験を伴う学びが必要である。	西武新宿線連続立体交差事業(中井～野方駅間)について、区としては「西武新宿線(中井駅～野方駅間)鉄道上部空間活用に関する基本方針」の策定に向け検討を進めており、事例等研究を行うとともに、ワークショップなどにより地域住民等と意見交換しながら、都や鉄道事業者と協議・調整を進めていく。
188	12月23日	中野区を防災の観点から安全な場所・空間にしてほしい。	野方以西の3駅周辺のまちづくりについては、令和7年度に西武新宿線沿線まちづくり整備方針を改定しており、防災性の向上についても記載している。このまちづくり整備方針に基づき、今後も引き続き地域の意見を聞きながら検討していく。
189	12月23日	歩きたくなるまちづくりにあたっては区民の声を聞き、取り組んでほしい。	歩きたくなるまちづくりの推進にあたっては、区民の声も聴きながら取組の検討を進めていきたい。
190	12月23日	新中野駅から中野駅にあたり、ポイ捨てが多く、ごみ箱の設置を検討してほしい。	かつて街中には、特に駅前や商店街などにごみ箱が設置されていたが、満杯になったごみ箱の周囲に置き捨てされる「二次的なごみ問題」や、カラスによる散乱、悪臭の発生など、衛生面での課題が多くあった。こうした問題を解決するため、清掃事業の進展等とともに、販売事業者が発生者責任を求める仕組みが整備され、環境美化の観点から街中のごみ箱は順次、撤去されてきた経緯がある。これまで、区民のモラル向上や「ごみは持ち帰る」という習慣が定着してきた中、再び街中にごみ箱を設置することは、こうした社会の進化に逆行するだけでなく、不審物の投棄など治安の悪化を招く要因にもなりかねない。このようなことから、区としては、今後も街中へのごみ箱の設置は行わず、「ごみは持ち帰る」ことの啓発を引き続き強化し、対策を講じていく。

	開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
191	12月23日	歩きたくなるまちづくりには、歩きたばこのないまちづくりとあわせて進めてほしい。	「中野区吸い殻、空き缶等の散乱及び歩行喫煙の防止等に関する条例」では、区民等に対し、区内の公共の場所において歩行喫煙をしないよう努めなければならないとしている。また、路上喫煙禁止地区に指定している中野駅周辺では、歩きたばこを含む路上での喫煙を防止するため、喫煙所の整備を行い、適切な分煙環境の確保に努めている。 区としては、吸い殻等の散乱防止や身体及び財産の安全確保、さらには受動喫煙の防止の観点から、歩きたばこの根絶が重要であると考えている。そのため、今後もマナー向上を目的とした普及啓発活動を継続的に実施し、歩きたばこのないまちづくりを一層推進していく。 また、区では、受動喫煙防止の観点から、新しい条例を整備し、区内の屋外の公共の場所における喫煙を制限していくことを考えている。
192	12月23日	無電柱化を進めるにあたっては、費用面のリスクや課題などを明らかにした上で、慎重に進めてほしい。	中野区無電柱化推進計画に基づき、道路や沿道の状況等に応じた整備手法を検討し、無電柱化を推進していく。
193	12月23日	公園の再整備にあたっては、実際にどのように利用されているかを把握するため、利用状況のデータを収集・分析しながら進めてほしい。また、公園の目的や利用のあり方、デザインについても十分に考慮した整備を行ってほしい。	公園再整備にあたっては、オープンハウスや近隣の小学校等へのアンケートを基に、実際の利用状況・要望を把握し、住民参加型のワークショップにおいて公園の目指す姿、配置、デザイン等について委託した設計会社とともに検討を進めている。今後も公園の利用状況を適切に把握しながら魅力ある公園整備を行っていききたい。
194	12月23日	南台公園の再整備が行われているが、工事期間中、子どもたちの遊ぶ場所が減っている。	近隣の公園や、みなみ公園と隣接するみなみ児童館などの利用も検討いただきたい。

	開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
195	12月23日	区全体の交通アクセスを向上してほしい。	区の公共交通網は比較的充実しているが、鉄道や路線バスのネットワークの構築が難しい地域が一部存在していることは認識している。区民、企業、交通事業者、行政が相互に協力し、地域特性に応じた地域公共交通ネットワークを形成し、持続可能な地域交通環境の向上を目指していく。
196	12月23日	中野駅前で送迎の車など、一時停止が目立っている。中野駅周辺の再開発にあたっては、一時停止ができる専用のスペースを設けるなど、対策を講じてほしい。	今後、中野駅新北口駅前エリアの市街地再開発事業と一体的に整備する都市計画駐車場において、送迎等の短時間駐車への対応についても対応するなど、中野駅での送迎に関する課題に対して工夫していきたい。
197	12月23日	関東バスと京王バスの時刻を同時に調べられず不便に感じている。	民間事業者が開発する経路検索サービス等も充実してきているが、引き続き事業者等とも連携し、研究を進めていきたい。
198	12月23日	歩道を自転車が走行することで危険を感じる場面があるため、自転車と歩行者の双方が安全に通行できるよう、適切な走行空間の整備を進めてほしい。	中野区自転車利活用計画に基づき、自転車ネットワークの形成に向けた自転車通行空間の整備を進めていく。
199	12月23日	区内の公共交通による南北間の移動が不便であるため、ネットワークの構築を検討してほしい。	区内の南北移動は主に路線バスが担っている。令和7年度より中野区交通政策推進協議会の下に路線バス部会を設置しており、路線バス環境の維持・改善に向け、引き続き検討を進めていく。

	開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
200	12月23日	中野駅西口改札の開設により自転車利用者の増加が見込まれるのであれば、土地を無償で提供するのではなく、民間企業に貸し出すことで収入を得てはどうか。25年間にわたる無償貸与に加え、建設費として1億円以上投じることを踏まえると、適切な運用ではない。	自転車駐車場の整備・運営にあたっては、ご意見のあった案も含め複数案の比較検討を行い、利便性及び経済性等を総合的に判断し、現在の案にしている。
201	12月23日	(仮称)環境行動ポイントの導入にあたっては、ナカペイを使用したコミュニティポイントの付与では、受け取れる人が限られてしまうため、他の方法を検討してほしい。	中野区内の店舗で買い物などに使えるデジタル地域通貨「ナカペイ」は、決済手段にとどまらず、地域経済の活性化、コミュニティの醸成、そして健康増進などを目指す、新しい取組として実施している。環境行動の多くは地域に直接的な影響を与えることから、環境行動ポイントについても、地域循環につながるデジタル地域通貨で付与する予定である。 ポイントを受け取ることでできる区民が限定されてしまうのではないかと懸念については、ナカペイはスマホ等のアプリを通じて区民の誰もが利用できるオープンな仕組みとしていることから、利用者が特定の層に限られるものではないと考えている。また、スマートフォンやタブレット端末の普及率は年代を問わず高い水準で推移しているため、より多くの区民がナカペイを利用し、環境行動に応じたポイントを受け取ることが可能になるものと認識している。
202	12月23日	リチウムイオン電池を集積所で回収してもらえることを知らなかったため、広報に力をいれてほしい。スーパーや通勤に便利な場所など人の集まるところに回収ボックスを設置してはどうか。	令和8年4月よりリチウムイオン電池などの小型充電式電池等を週1回ごみの集積所で回収する。回収開始に合わせて区報や区ホームページでお知らせするほか、「資源とごみの分け方・出し方」を全戸に戸別配布するなど、様々なツールにより周知していく。また、集積所での回収により回収場所が増えることから、スーパー等の回収拠点の増設は考えていない。
203	12月23日	防犯機器の購入に対する補助にとどまらず、犯罪そのものを未然に防ぐための環境を整備してほしい。また、防犯機器の補助とは具体的にどのようなことをするのか。	青色灯防犯パトロールカーによる巡回パトロールや警察と連携協力して各種犯罪被害防止キャンペーン、注意喚起広報などの取組を実施している。侵入被害防止に有用とされる防犯機器等を購入して設置した場合に、購入費用と設置費用の総額の4分の3(補助上限額3万円)を補助している。

	開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
204	12月23日	中野区防犯機器等購入緊急補助事業にあたり、申請方法や補助額、対象となる品目など、利用しやすい制度となるよう、内容の見直しを検討してほしい。	対象品目は、住宅の侵入被害を防止するために有用とされている防犯機器を選定している。申請手続については、今後検討を進めていく。
205	12月23日	eLTAXの利用方法が分かりづらいので、分かりやすく方法を周知してほしい。	eLTAXについては、国民健康保険料の利用開始までに、区報や区ホームページで周知する。利用方法については、区ホームページから地方税共同機構が運営する利用方法が記載されたサイトへ案内する予定である。
206	12月23日	防災リーダーのように、区政と区民のパイプ役になる人をもっと増やしてほしい。区民が区政を実感できるような形で進めてほしい。	区では、防災リーダーの育成に加え、地域防災会や消防団など、地域で防災を担う方々の活動を支援している。支援を通じて、区民が区政をより身近に感じられるよう取り組んでいく。

	開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
207	12月23日	傷病手当金を廃止するのであれば、それに代わる支援策を充実させてほしい。	当該傷病手当金は、厚生労働省からの要請により、国内の新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、感染した国民健康保険被保険者等に対し支給することとしたものである。 新型コロナウイルス感染症について、令和5年5月8日に感染症法上の位置づけが5類感染症へと移行した。法律に基づく行政による患者の入院措置・勧告や外出自粛要請、就業制限等はなく、傷病手当金に代わる新型コロナウイルス感染症に対する特別な支援は検討していない。
208	12月23日	公共サインの多言語化を行ってほしい。	現在、「中野区公共サインガイドライン」に基づき、主に日本語と英語で表記しているところであるが、地域や施設の特性などを考慮したうえで、必要に応じてそのほかの言語でも表記するなど、引き続き多言語化を進めていく。
209	12月23日	区政情報やイベント情報の広報にあたっては、紙媒体での発信は行いつつ、ためまっぷの活用など、適度にデジタル化を行ってほしい。	区では、区報などの紙媒体に加え、XやLINE、Instagramといった各種SNSや、地域のイベント情報を掲載する電子掲示板であるためまっぷなかのを活用、情報発信を行っている。引き続き、情報の内容や対象などに応じてより効果的な情報発信媒体での広報を行っていく。
210	12月23日	自転車用ヘルメット購入補助を区内の事業協力店以外でも購入できるようにしてほしい。	区では、自転車用ヘルメットの購入に際し、販売価格から2,000円を補助している。補助の対象店舗は、一定の安全基準を満たしたヘルメットを取り扱う事業協力店として登録された事業者を対象としている。
211	12月23日	マンションの管理組合に属しているが、耐震化や防災リーダーに関する情報などは、管理組合側から探さなければ得ることができない。 区から積極的に情報を伝えてほしい。	区では、集合住宅防災の推進にあたり、区ホームページや各種広報媒体、関連セミナー・相談会など、様々な場面を通じて情報発信に取り組んでいく。